

第63回全日本特別支援教育研究連盟全国大会福井大会
大会アピール（福井大会）

2024年11月21日(木)

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は、能登半島を中心とした特別支援教育の場にも甚大な被害をもたらした。全国の特別支援教育関係者の思いを一つにした復興への歩みが必要である。全日本特別支援教育研究連盟においても、復興のために可能な限りの対応をしていかなければならない。

また、2024年は特別支援教育分野においても、アフターコロナの取り組みが本格化した。コロナ禍を経た新しい特別支援教育の前進が期待される。

2021年の国連障害者権利委員会による我が国特別支援教育への勧告は、一般社会にもインクルーシブ教育への関心を高めることとなった。

これらの状況は、本大会の主題が指摘する変化する社会そのものであり、だからこそ、主題にうたう変化する社会の中で 自分らしさを生かし 生き生きと輝く子どもたちの姿を実現する必要がある。

全日本特別支援教育研究連盟では、これらの状況と本大会での成果を踏まえ、全特連ビジョン（2022年5月20日改定）の6項目に即して、今後1年間にわたる活動の重点として、以下の通り、全特連アピール（福井大会）を策定する。

1 特別支援教育の推進による共生社会の実現を目指す

国内外の動向も踏まえ、インクルーシブ教育システムとして、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室及び通常の学級の制度面、実践面でのいっそうの充実を図る。

2 教育・福祉・労働・医療等の関係機関の連携推進による生涯にわたる総合的な支援体制の充実を目指す

インクルーシブな社会における生涯にわたる主体的な生活を積み重ねることを意図して、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の実践現場での活用事例等の蓄積と共有を図る。

3 卒業後の自立や社会参加の実現に向けて子供たちのキャリア発達を支援する視点からの教育の推進を目指す

改めてライフキャリアの視点を踏まえ、初等教育、中等教育におけるキャリア・パスポートの活用等の実践の充実を図る。

4 特別支援教育に関する専門性の高い教職員の育成を目指す

特別支援教育を新たに担当する教員や通常の学級を担当する教員などに資する情報発信・研修等の充実を図り、特別支援教育の専門性向上や魅力の発信に努める。

5 子供たちが安全・安心で豊かに暮らせる社会を目指す

令和6年能登半島地震被災地域に対して、過去の災害からの教育復興にかかわって全日本特別支援教育研究連盟が行った調査等の情報提供等を行うとともに、必要な支援を引き続き行う。

6 特別支援教育の教育課程に関する実践研究の一層の充実を目指す

子ども主体の学校生活の実現を、各学校種別に共有の価値として「学びの連続性」をとらえ、教育課程に関する実践研究を推進する。

以上の大会アピール（福井大会）は、本大会の成果としての各学校での実践、及び全日本特別支援教育研究連盟の各種事業の実施において、その実現を図るものとする。